

穂肥施用から水管理のポイント

**穂肥は、遅れずに施用しましょう！**

巻農業普及指導センター

## 穂肥施用のポイント

- 分施は6月20日頃から幼穂を確認し、遅れずに施用する。
- 全量基肥（一発基肥）は、葉色の低下が懸念される場合は追肥する。

## 1 生育状況（6月10日現在、巻普及センター）

## 【生育の特徴】（前年比）

○茎数は前年並。葉数の進みは前年に比べ早いため**出穂期が早まる見込み**。

## 【令和8年度 なつひめ生育データ 5月1日移植】

	草丈	茎数	葉数	葉色
	(cm)	本/m <sup>2</sup>	(葉)	SPAD値
令和8年	33	328	8.4	39.5
昨年度	31	334	7.0	41.2
昨年度比	やや長い	並	早い	やや淡い

## 2 気象予報（新潟地方気象台6月11日発表1か月予報）

- ・暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高い見込み。
- ・前線や湿った空気の影響を受けやすいため、向こう1か月の降水量は多い予報。

## 3 なつひめの出穂期予想と穂肥

## (1) 出穂期の見込み

- ・昨年のなつひめの出穂期は7月16日。
- ・6月10日現在、葉数の進みは前年に比べ1.4葉早く、今後の気温も高い予報のため、今年のなつひめの出穂期は前年より早い**7月15日頃**（5月1日移植）と見込まれる。

## (2) 穂肥の時期と量

## ア 分施栽培

- ・1回目の穂肥は出穂の**23日前頃（幼穂形成期）に施用**する。
- ・**1回目の施用時期、量が遅れると、収量が低下**するため、**施用が遅れないように**する。
- ・施用量は**1回目は窒素成分で2kg/10a、2回目は1～2kg**を施用する。
- ・出穂期まで葉色を40（SPAD）程度に保つ。

### <幼穂形成期・出穂期の予想と穂肥の目安>

幼穂形成期 (月/日)	出穂期 (月/日)	出穂期前日数(月/日)と施用量(窒素)		合計施用量(注) (N kg/10a)
		1回目	2回目	
6/22	7/15	23 日前 (6/22 頃) 2 kg/10a	14 日前 (7/1 頃) 1 ~ 2 kg/10a	3.0~4.0

(注)：窒素施用量は葉色を見ながら加減する

### <出穂期の生育のめやす>

	出穂期生育のめやす
茎 数	420~440 本/m <sup>2</sup>
葉 色	39~41 (SPAD 値)
葉 数	12.0~13.0

#### イ 全量基肥肥料（一発基肥）

- ・飽水管理により、土壌中の水分を保持し、一発基肥の穂肥の肥効を発揮させる。
- ・気温により肥料の溶出時期が変化するので、葉色の推移に注意する。
- ・特に、出穂期の SPAD 値が **40 を下回りそうな場合、出穂 14 日前までに追肥**を行う。

## 4 病虫害防除

### (1) 穂いもち

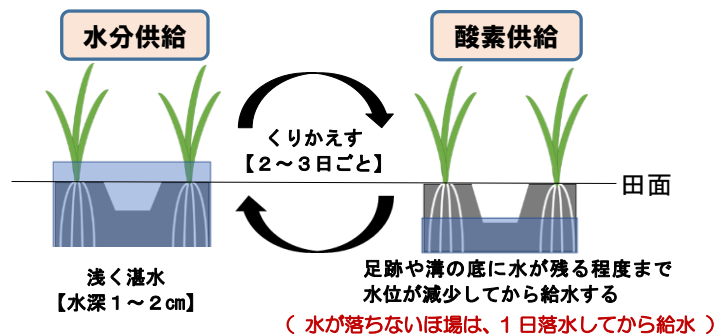
- ・なつひめの穂いもち抵抗性はやや弱いため、穂いもちを確認した場合は速やかに薬剤防除を行う。

### (2) カメムシ対策

- ・出穂が早い場合カメムシ類の薬剤防除が遅れないよう適期に防除する。

## 5 飽水管理の徹底

- ・籾の充実には登熟期間の水管理が重要なため、出穂期の 25 日前から出穂期 25 日後までの間は、飽水管理を行う。
- ・気象予報に注意し、台風等によるフェーンや異常高温が発生する場合は、あらかじめ湛水し、高温後に速やかに落水する。根腐れ等防止のため、**長期間溜め水にしない。**



【 飽水管理のイメージ図 】